

第11分科会 「社会形成能力」運営概要

- | | |
|----------------|--|
| 【研究課題】 | 社会形成能力を育む教育の推進 |
| 【研究の視点】 | 1 社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進
2 身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育の推進 |

I 分科会研究協議の運営計画

今日、社会では、少子高齢化や核家族化の進行とともに、絶え間ない技術革新の中で、人間関係の希薄化の傾向が一層強まっている。また、周囲の人々との交流に消極的な家庭が増え、住民による地域活動が低迷したり、家庭の価値観の多様化や地域コミュニティの変化に伴い、子どもたちの人間関係を育み広げる機会が減少し、地域の中で社会性を高めたりすることが難しくなっている。このような情勢の中で、学校においては、これからの社会を生きる子どもたちに、しなやかな知性と創造性、豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、社会形成能力の基礎を身に付けられるようにしなければならない。

さらには、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、社会とどう関わり、どのように貢献していけるかを考えた学校づくりを進めていく必要がある。そのためには、子どもたちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした豊かな体験活動を積極的に取り入れていくことが大切である。

また、全教育活動をキャリア教育の視点から捉え、幅広い学力、コミュニケーション能力や規範意識等、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を高めていく教育課程を編成し、働く意義や目的を探究して、自分なりの勤労観・職業観を形成していく指導をすることも重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題を解決する力や態度を養うための具体的方策と成果を明らかにする。

視 点 1 社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進

- ・地域の特色を生かした体験的な学習活動や文化、伝統との出会いの在り方
- ・夢や希望を持ち、他者と協働して主体的に社会参画・貢献しようとする態度を育てる教育活動

視 点 2 身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育の推進

- ・充実した体験的活動を実現するための家庭、地域との連携の在り方
- ・キャリア教育を推進する上での校長の役割と組織的な教育活動

II 昨年度までの成果・課題

【成果】 視点1…地域子どものよさを発信することで、地域の一員という意識を高め、自己有用感・肯定感を高めることができた。また、様々なつながりを大切にすることや自主的な学びあいの授業などから、夢や希望をもって生きようとする自立心が育つ。その際には地域連携を積極的に図る校長の指導性が確認された。

視点2…「ふるさとキャリア教育」の推進により、「ひと」とのつながりが生まれている。また、自治体の総合戦略と呼応することで、多くの団体からの協力が得られやすくなった。同時に、教職員の意識改革と資質向上を図る取り組みが見られた。

【課題】 視点1…人間関係形成能力・課題対応能力の育成を主体的・対話的で深い学びを学校教育の中でどのように進めていくことが大切である。また、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、どのように具体化していくことがよいのか。

視点2…様々な体験的な活動があるが、単なるイベントにしないため、目標を共有することが求められる。地域の人材を発掘、教育目標の理解を地域の住民とどのように共有化していくか。同時に教員の負担を減らす取り組みも必要である。

Ⅲ 研究発表の概要

◇研究発表者：宗谷地区 幌延町立幌延小学校 吉崎 健一

「ふるさとを愛し、志を持って、新しい社会を切り拓く力を育むキャリア教育の推進」
～地域社会に貢献しようとする意欲や態度を育てる教育活動の推進と校長の在り方～

◇研究の概要

全国学力・学習状況調査の質問紙の結果から、「地域行事への参加率」が大きく全国を上回るといふ特徴的な数値が示されている。反面、コミュニケーション力の未熟さやメディアに触れる時間が全国平均より長くなっているという点も読み取ることができた。このウィークポイントの補強とストロングポイントの更新を管内校長会では研究の視点と捉え継続研究を進めてきている。

地域の教育力を活用し、さらには、各市町村の取り組みと学校での実践を結び付ける教育課程の編成を校長会としての取り組みについて発表する。

Ⅳ 討議の流れ(案)

1	開会・日程確認	13:00～13:10	(10分)	
2	趣旨説明	13:10～13:20	(10分)	
3	研究発表	13:20～13:45	(25分)	
4	全体討議	13:45～14:00	(15分)	※質問多数の場合は時間延長し
5	休憩	14:00～14:10	(10分)	グループ討議で調整
6	グループ討議	14:10～15:30	(80分)	※途中休憩をはさむ
7	全体討議	15:40～16:12	(32分)	
8	まとめと今後の課題	16:12～16:25	(13分)	
9	連絡	16:25～16:28	(3分)	
10	閉会	16:30		

Ⅴ 討議の柱(案)

【視点1】社会に貢献する資質・能力・態度を育成する教育課程の編成と校長の在り方について

キーワード：地域連携、幼保小中高連携、コミュニ・ケーション能力、キャリア教育、他者との協働、体験活動、社会参画 人材不足

【視点2】身の回りの仕事や環境に関心を持ち、目標に向かって努力する態度を育成するキャリア教育とは、いかにあるべきか

キーワード：地域・家庭連携、体験活動、地域貢献、自己肯定感、働く意義、「働き方改革」と「社会に開かれた教育課程」、職業的自立

Ⅵ お願い

◇グループ内で名刺交換を行いますので、名刺10枚程度お持ちください。

◇グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。

◇各地区・各校の現状や取組についてグループで討議・交流いたします。

◇地区・自校で本分科会のテーマ(社会参画、地域貢献、キャリア教育など)に則した取組がありましたら、A4 1枚程度に端的にまとめ(表裏印刷可)、10部程度お持ちよりください。